

学校法人 弘前学院

2023(令和5)年度 事業報告書

目 次

1. 法人の概要

(1) 基本情報	1
①法人の名称	1
②主たる事務所の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス	1
(2) 建学の精神、弘前学院教育方針	1
(3) 学校法人の沿革	2
(4) 設置する学校・学部・学科等	3
(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況	3
(6) 収容定員充足率	4
(7) 役員の概要	4
(8) 評議員の概要	5
(9) 教職員の概要	6

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要	7
①卒業の認定に関する方針	7
②教育課程の編成及び実施に関する方針	9
③入学者の受入れに関する方針	12
(2) 中期的な計画(教学・人事・施設・財務等)及び事業計画の進捗・達成状況	13

3. 財務の概要

(1) 決算の概要	16
①貸借対照表関係	16
②資金収支計算書関係	17
③事業活動収支計算書関係	19
(2) その他	21
①関連当事者等との取引の状況	21
②学校法人間財務取引	21
(3) 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策	21

4. 学事報告

(1) P T A ・ 後援会 ・ 校友会 ・ 奨学事業会	24
(2) 学校行事 ・ 卒業者数	25
①法人本部	25
②大学 ・ 大学院	26
③中学校	30
④高等学校	32

1. 法人の概要

(1) 基本情報

①法人の名称

学校法人 弘前学院

②主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス

・住所

青森県弘前市大字稔町 1 3 番地 1

・電話番号

0172-36-5224

・FAX 番号

0172-32-7509

・ホームページアドレス

学校法人 弘前学院 <https://hgc.hirogaku.ac.jp/>

弘前学院大学 <http://www.hirogaku-u.ac.jp/>

弘前学院聖愛高等学校、聖愛中学校 <http://www.seiai.ed.jp/>

(2) 建学の精神、弘前学院教育方針

①建学の精神

弘前学院は、本多庸一によって 1886 年に設立された。本多先生は、キリスト教の精神を基に「畏神愛人」を信条とされた。

神を畏れるとは、聖書に示されている天地の創造者のみを主（神）として拝すること、即ち特定の思想や人物及び自己を絶対化せず、他のなにものをも神格化しないということである。隣人を愛するという事は、自己と同質の人あるいは仲間ではなく、他民族及び自己と異なる一人ひとり的人格と個性と立場を尊重し、受容することである。

本学院はキリスト教の精神と本多先生の信条を建学の基とし、このような人間形成を教育の根底に据えて、その上で高度の専門の知識と技術を習得する事を志向しているのである。

②弘前学院教育方針

弘前学院の教育は

キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、

神の前に真実に生き

真理を謙虚に追求し

つつしんで神の御言葉を聞き

すべての人を大切にする畏神愛人の精神をもって

すべての人と社会とに対する責任を

積極的に果たす人間の形成を目的とする。

(3) 学校法人の沿革

明治 19 年 6 月 25 日	牧師本多庸一により創立、来徳女学校と称する。
明治 20 年 6 月 8 日	弘前遺愛女学校と改称する。
明治 22 年 6 月 25 日	私立弘前女学校と改称する。
明治 31 年 5 月	私立弘前幼稚園を設置する。
明治 40 年 4 月 10 日	愛光幼稚園を設置する。
明治 40 年 9 月 15 日	私立弘前幼稚園を若葉幼稚園と改称する。
大正 8 年 7 月	私立弘前女学校を弘前女学校と改称する。
昭和 12 年 11 月 29 日	財団法人弘前学院を設置する。
昭和 21 年 4 月 1 日	弘前女学校を弘前聖愛高等女学校と改称する。
昭和 23 年 4 月 1 日	学制改革により弘前聖愛高等学校、弘前聖愛中学校を設置する。
昭和 25 年 3 月 14 日	弘前聖愛短期大学英文科を設置する。
昭和 25 年 6 月 6 日	法人名を弘前学院とし、弘前学院短期大学、弘前学院聖愛高等学校、弘前学院聖愛中学校と改称する。
昭和 26 年 3 月 2 日	財団法人弘前学院を学校法人弘前学院とする。
昭和 32 年 3 月 22 日	弘前学院短期大学に家政科を設置する。
昭和 33 年 11 月 4 日	若葉幼稚園、愛光幼稚園を合併し、弘前学院聖愛幼稚園とする。
昭和 35 年 3 月 21 日	弘前学院短期大学に専攻科食物専攻を設置する。
昭和 41 年 3 月 18 日	弘前学院短期大学に国文科を設置する。
昭和 42 年 12 月 28 日	弘前学院短期大学に専攻科英文専攻、家政専攻、国文専攻を設置する。
昭和 46 年 1 月 27 日	弘前学院大学文学部英米文学科、日本文学科を設置する。
昭和 47 年 3 月 30 日	弘前学院短期大学英文科、国文科を廃止する。
昭和 47 年 4 月 17 日	弘前学院短期大学専攻科英文専攻、国文専攻を廃止する。
昭和 55 年 4 月 15 日	弘前学院聖愛中学校を廃止する。
昭和 61 年 9 月 27 日	弘前学院創立 100 周年記念式典を挙げる。
昭和 63 年 4 月 1 日	弘前学院短期大学家政科を生活福祉学科に改称する。
平成 7 年 4 月 1 日	弘前学院聖愛幼稚園を休園する。
平成 8 年 4 月 15 日	弘前学院聖愛幼稚園を廃止する。
平成 10 年 12 月 22 日	弘前学院大学社会福祉学部社会福祉学科を設置する。
平成 12 年 10 月 26 日	弘前学院短期大学生活福祉学科を廃止する。
平成 14 年 4 月 1 日	弘前学院大学文学部英米文学科、日本文学科を英語・英米文学科、日本語・日本文学科と改称する。
平成 14 年 12 月 19 日	弘前学院大学大学院社会福祉学研究科人間福祉専攻修士課程を設置する。
平成 16 年 11 月 30 日	弘前学院大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程を設置する。
平成 17 年 1 月 28 日	弘前学院大学看護学部看護学科を設置する。
平成 17 年 10 月 1 日	弘前学院創立 120 周年記念式典を挙げる。

平成 17 年 12 月 28 日	弘前学院聖愛中学校を設置する。
平成 28 年 10 月 10 日	弘前学院創立 130 周年記念式典を挙げる。
平成 29 年 8 月 2 日	学校法人弘前学院と弘前市との包括連携に関する協定を締結する。 学校法人弘前学院と弘前商工会議所との包括連携に関する協定を締結する。
令和元年 5 月 15 日	弘前学院大学と青山学院大学との連携・協力に関する協定を締結する。
令和 4 年 12 月 1 日	弘前学院大学と五所川原商業高等学校(現下山学園高等学校)との教育連携・協力に関する協定を締結する。
令和 5 年 8 月 10 日	弘前学院大学と青森県立鯉ヶ沢高等学校との教育連携に関する協定を締結する。
令和 5 年 11 月 29 日	弘前学院大学と青森県立弘前南高等学校との教育連携に関する協定を締結する。
令和 6 年 2 月 15 日	弘前学院大学と青森県立黒石高等学校との教育連携に関する協定を締結する。

(4) 設置する学校・学部・学科等

弘前学院大学	大学院	社会福祉研究科
		文学研究科
	文学部	英語・英米文学科
		日本語・日本文学科
	社会福祉学部	社会福祉学科
看護学部	看護学科	
弘前学院聖愛高等学校	全日制課程 普通科	
弘前学院聖愛中学校		

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況 2024(令和6)年5月1日現在(単位:人)

学 校 名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
大学院	社会福祉学研究科	10	0	20	1
	文学研究科	10	1	20	4
大 学	文学部	100	71	400	290
	社会福祉学部	50	44	200	170
	看護学部	70	30	280	185
弘前学院聖愛高等学校		216	154	856	440
弘前学院聖愛中学校		60	20	180	60

(6) 収容定員充足率

2024(令和6)年5月1日現在(単位:%)

学 校 名	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
弘前学院大学大学院	10.0	10.0	10.0	15.0	12.5
弘前学院大学	81.1	83.2	85.2	82.6	73.3
弘前学院聖愛高等学校	52.6	49.9	49.8	47.4	51.4
弘前学院聖愛中学校	40.6	41.1	36.1	33.3	33.3

(7) 役員の概要

①定員数、役員の氏名、就任年月日、常勤・非常勤の別、主な現職等

理事 13名～16名、監事 2名

理事(選任条項、就任順)

2024(令和6)年5月1日現在

No.	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
1	小 寺 正 剛	R4.4.1	常勤	弘前学院理事長、法人企画室長
2	長 内 弘 光	R4.4.1	常勤	弘前学院学院長
		R6.4.1	常勤	弘前学院聖愛中学高等学校長
3	藁 科 勝 之	R3.4.1	常勤	弘前学院大学長
4	井 上 諭 一	R1.5.24	常勤	弘前学院大学文学部教授
5	岩 渕 静 夫	R4.4.1	常勤	弘前学院聖愛中学高等学校教諭
6	長 内 幸 子	R3.9.4	非常勤	弘前学院校友会会長
7	山 内 清 子	R5.2.27	非常勤	弘前学院校友会副会長
8	松 村 枝 美	R2.4.24	非常勤	日本基督教団弘前南教会担任教師
9	渡 邊 宣 博	R5.6.1	非常勤	日本基督教団弘前教会牧師
10	野 澤 武	R3.9.4	非常勤	(一社)弘前学院後援会理事長、会社社長
11	小 野 寺 仁	R3.4.1	常勤	弘前学院聖愛高等学校副校長
12	椎 名 啓 祐	R3.10.16	非常勤	弘前学院奨学事業会長、会社社長
13	高 松 彰	R6.4.1	常勤	弘前学院大学学長補佐、大学事務長

監事

No.	氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
1	吉 川 功 一	R1.6.28	非常勤	会社社長
2	佐々木 耕 治	R3.9.4	非常勤	会社社長

②責任免除・責任限定契約、役員賠償責任保険契約の状況

・責任免除

役員が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、職務

を行うにつき善意かつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、役員が賠償の責任を負う額から最低責任限度額を控除して得た額を限度として理事会の議決によって免除することができることとしています。

・責任限定契約

非業務執行理事等が学校法人に損害を与えた場合の責任について、善意かつ重大な過失がないときは、責任限定契約を結ぶことができる旨を寄附行為に定めており、損害賠償責任を負う金額の範囲を限定しています。限度額は100万円を上限に法人があらかじめ定めた金額と最低責任限度額とのいずれか高い額としています。

・役員賠償責任保険契約

本法人は「私大協役員賠償責任保険」に加入し、被保険者の役員等が負担することとなる法律上の損害賠償金、争訟費用等について、当該保険契約により填補することとしています。

契約期間

2024(令和6)年4月1日午後4時～2025(令和7)年4月1日午後4時

保険会社

東京海上日動火災保険会社 引受保険会社(幹事)

保険料

年間112,000円

保険会社の免責事由等

役員の犯罪行為、役員が私的な利益または便宜の供与を違法に得たことに起因する対象事由および役員が各種ハラスメントの直接の行為者に該当した場合等

(8) 評議員の概要

定員数 31名～36名

評議員の氏名、就任年月日、主な現職等

選任条項、就任順

2024(令和6)年5月1日現在

No.	氏名	就任年月日	主な現職等
1	小寺正剛	R4.4.1	弘前学院理事長、法人企画室長
2	長内弘光	R4.4.1	弘前学院学院長
		R6.4.1	弘前学院聖愛中学高等学校長
3	藁科勝之	R5.4.1	弘前学院大学長
4	佐々木力	R5.6.28	弘前学院法人本部事務長兼総務課長
5	木下(今村)かほる	R5.6.28	弘前学院大学文学部教授、大学院研究科長
6	小川幸裕	R5.6.28	弘前学院大学文学部教授
7	大野拓哉	R5.6.28	弘前学院大学社会福祉学部教授
8	鎌田学	R6.4.1	弘前学院大学文学部長、教授
9	三浦弘嗣	R3.6.28	弘前学院聖愛中学高等学校教諭
10	佐川愛	R5.6.28	弘前学院聖愛中学高等学校教諭

11	長内風太	R5. 6. 28	弘前学院聖愛中学高等学校教諭
12	長内幸子	R5. 6. 28	弘前学院校友会会長
13	山内清子	R5. 6. 28	弘前学院校友会副会長
14	花田佐値子	R5. 6. 28	弘前学院校友会会計
15	楠美志保子	R5. 12. 15	弘前学院校友会庶務
16	葛原トク子	R5. 4. 1	弘前学院校友会会計
17	村田志津子	R5. 6. 28	弘前学院校友会庶務
18	田邊千家	R6. 4. 5	弘前学院校友会監事
19	藤野祥子	R5. 4. 1	弘前学院校友会監事
20	野澤武	R5. 9. 4	(一社)弘前学院後援会理事長、会社社長
21	齋藤昭	R5. 6. 28	
22	田中陽逸	R5. 12. 15	自営
23	井上諭一	R5. 5. 24	弘前学院大学文学部教授
24	岩淵静夫	R5. 4. 1	弘前学院聖愛中学高等学校教諭
25	池田茂	R6. 4. 1	弘前学院聖愛中学校副校長
26	椎名啓祐	R5. 9. 4	弘前学院奨学事業会長、会社社長
27	松村枝美	R5. 2. 27	日本基督教団弘前南教会担任教師
28	渡邊宣博	R6. 4. 24	日本基督教団弘前教会牧師
29	小野寺仁	R5. 4. 1	弘前学院聖愛高等学校副校長
30	加福哲三	R5. 4. 1	藤崎町教育委員会委員
31	平川修一	R6. 4. 1	弘前学院法人本部財務課長
32	高松彰	R6. 4. 1	弘前学院大学学長補佐、大学事務長
33	中田悦子	R6. 6. 24	日本基督教団隠退教師

(9) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数、平均年齢等

2024(令和6)年5月1日現在(単位:人)

区分		法人本部	大学院	大学	高等学校	中学校	計
教員	本務	0	(13)	54	35	9	98
	兼務	0	5	91	12	2	112
職員	本務	8	0	24	5	0	37
	兼務		0	1	1	0	2

[備考] ()は学部兼任教員

本務教職員の平均年齢 教員 51.2歳 職員 46.2歳

2. 事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要

① 卒業の認定に関する方針

○大学院社会福祉学研究科

社会福祉学研究科に在籍し、建学の精神である「畏神愛人」の精神にのっとり、所定の授業科目について30単位以上を修得します。そして、必要な研究指導を受け、本学研究科の目的に応じながら、幅広い視野に立ち、かつ深い学識をもって専攻分野における研究能力を身につけます。また、高度な専門性を必要とする職業で必要とされる能力を主体的に修得するように務めます。そして、修士論文を作成し審査に合格した者に対して修士（社会福祉学）の学位を授与します。

○大学院文学研究科

建学の精神を基にしながら、日本語・日本文学・日本文化の各分野を研究対象として、各領域の地域性の解明、および内在する普遍性を追究できる能力を身につける。そして、深い専門的知識と広い視野をもって、自ら課題を発見し、解決できる研究遂行能力を身につける。また、そこで得た知見を社会に発信する一方で、積極的なコミュニケーションを通して他者との協働のもとに、地域社会の発展に寄与することを目指す。

以上の能力を身につけ、研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者に、修士（文学）の学位を授与する。

○弘前学院大学

本学に4年以上在学し、各学部学科で定める卒業に必要な単位をすべて修得し、スクールモットーである「畏神愛人」の姿勢が備わり、豊かな人間性を有し、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を身に付け、地域や国際社会に積極的に貢献することができる学生に学位を授与します。

○大学文学部

弘前学院大学文学部においては、次に掲げる能力を身につけた者に「学士（文学）」の学位を授与する。

英語・英米文学科及び日本語・日本文学科に共通する要件

- 1 キリスト教主義に基づく建学の精神を理解し、また自身の専門のみにとらわれない多様な知識や言語を学ぶことで、広い範囲にわたる理解力を持ち、日々移り変わる新しい状況に対応できる。
- 2 キャリアに関する基礎的知識及び自身のキャリアに関する知識を身につけることで、自ら目標を定め、その達成に向けて行動できる。

英語・英米文学科固有の要件

- 3 英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な知識や技術を学ぶことにより、英語を用いた学びや多様性のある社会へ貢献ができる。
- 4 英語及び欧米の文学・文化について専門的に学ぶことを通して、論理的な思考を身につけ、そうした思考に基づく明快な言葉によって多様性のある社会に貢献できる。

日本語・日本文学科固有の要件

- 5 日本語及び日本の文学・文化について専門的に学ぶことを通して、論理的な思考を

身につけ、そうした思考に基づく明快な言葉によって多様性のある社会に貢献できる。

○大学社会福祉学部

基盤領域科目、総合領域科目、専門実践領域科目、自由選択科目のそれぞれについて示された単位数を満たして総計 124 単位以上を修得し、次に掲げる能力を身につけたものに学位を授与する。

- 1 様々な生活上の課題に対し、真摯に向き合い、あらゆる知識や技術を傾注し解決を図ろうとする人間性と創造性豊かなソーシャルワーカー等の福祉実践力を有している。
 - ・社会的視野を拡大するための知識を身につけている。
 - ・サービスを必要とする利用者の生活実態について正しく把握するための知識を身につけている。
 - ・社会福祉の専門職と呼ばれるにふさわしい知識と技術を獲得している。
- 2 自らの力で学ぶための基礎知識及び専門にとらわれない幅広い知識を身につけ、また、それらを将来にわたって活用することができる。
- 3 思考の柔軟性を持ち、論理的に考え、丹念に調べ、しっかり表現できるための基礎的能力と教養（知的関心）・学究的な態度を身につけている。

○大学看護学部

キリスト教主義精神による人間観に基づいた生命の価値、人間の尊厳について理解し、看護専門職を目指すものとして、常に倫理的姿勢を持ち、人々に関心を寄せるケアリングの実践者としての態度を身につけているとともに、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力をそなえていることを求め、以下の通りディプロマ・ポリシーを定めます。

－姿勢・態度－

- 1 福音主義キリスト教精神に則り、人間の尊厳を理解し、倫理観に基づき責任ある行動をとることができます。
- 2 幅広い教養と多様な知識を身につけ、看護活動に取り組める能力を身につけています。

－知識・技能－

- 3 医療チームの一員として、役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけています。
- 4 全てのライフステージ・健康レベルに応じた、根拠に基づく基本的看護実践ができる技能及び表現力を身につけています。

－思考力・判断力・表現力－

- 5 知的好奇心を持って、問題を見つけ、考え、解決に向けて継続的に学修する能力を身につけています。

－主体性・多様性・協働性－

- 6 地域の保健医療の水準の向上に寄与できる基礎的能力を身に付けています。
- 7 多様な文化と価値観を理解し、国際的な視野から、健康課題を捉える能力を身につけています。

②教育課程の編成及び実施に関する方針

○大学院社会福祉学研究所

社会福祉学研究所の教育課程では、修士課程の教育目的を達成するため人間福祉特論科目で実践的な知識を獲得し、人間福祉実習科目において実践的経験を理論に統合化する教育を行います。さらに、人間福祉演習科目においては仮説・調査・検証の過程を展開する研究活動をとおして修士論文作成のための指導を受けます。

このように、学修と研究がスムーズに行えるようにカリキュラムを編成しています。

○大学院文学研究所

日本語・日本文学・日本文化の各分野に関する高度な専門的知識を体系的に修得し、とくに北東北をはじめとするそれぞれの地域性の解明、および内在する普遍性を追究できる能力を獲得できるように授業科目を設置し、また、主体的に研究を進め、論文執筆に取り組めるように教育課程を編成する。

各分野に関する講義科目の「特論」や演習科目の「演習」を設置する。講義によってその分野の事項を学んだ上で、次に演習によって学生自らがその分野の問題に取り組むという形をとる。こうしたコースワークを基礎にして、リサーチワークとして学生自らがオリジナルな研究を行うことを目的にした通年の必修科目「課題研究Ⅰ」を1年次に、さらに「課題研究Ⅱ」を2年次に設けて、「課題研究」を段階的に履修することで修士論文がスムーズに作成できるようにする。各分野における「特論」や「演習」の授業科目が計22単位、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」が計8単位で、コースワークとリサーチワークのバランスが適切になるように配慮している。

○弘前学院大学

神を畏れ敬い人を愛する心「畏神愛人」をスクールモットーとして人間性豊かな人格の完成を目指し、文学・福祉・看護に関する高度な専門性を意欲的に追求し、地域や国際社会に貢献できる人材を育成するため、全学共通の礼拝、リトリート、キリスト教学、ヒログク教養講話、基礎演習等を基盤に、各学部学科の専門教育科目を適切に配置し、各学部とも前期・後期には形成的評価、最終的には総括的評価を進め、それらの結果を学生個々に反映するとともに、それぞれの教育目標や学生のニーズに合わせた体系的カリキュラムを編成しています。

○大学文学部

弘前学院大学文学部は、計128単位以上を修得し、卒業論文を提出することで、学位取得が可能となる。この単位数に応じた科目は、以下に掲げるカリキュラム・ポリシーを基に設定されている。以下に掲げる各科目群においては、アクティブ・ラーニングの要素をバランスよく取り入れことを目指している。

英語・英米文学科及び日本語・日本文学科に共通する方針

DP1の達成に向けて

1-1 大学における学びに必要な基礎を養うために、アクティブ・ラーニングを中心とする必修科目である「基礎科目」を設定する。

1-2 建学の精神に基づいた幅広い教養と人間性を身につけるために、「キリスト教」、「人間・社会」、「自然」、「地域」についての4分野から成る選択必修科目を「一般教育科目」として設定する。

1-3 単に幅広い内容を学ぶのみならず、特定のテーマについてより深く学ぶための選択必修科目である「教養演習」を設定する。

1-4 学びの幅を広げるために、必修科目である英語と選択必修科目である英語以外の言語を「外国語科目」として設定する。

1-5 一般的な知識のみならず、運動や健康についての知識の獲得とその実践のために、スポーツの実技及び講義を「保健体育科目」として設定する。

1-6 学びの多様性を担保するため、国内外の大学との単位互換科目を設定する。

DP2の達成に向けて

2-1 現代社会への理解を深めることを通して、将来のビジョンを描き、自らの将来に対する準備を進めるための系統だった科目を「キャリアサポート科目」として設定する。

2-2 自身のキャリアデザインに応じて、必要な能力を育成するための選択科目を「キャリアサポート科目」として設定する。

英語・英米文学科固有の方針

DP3の達成に向けて

3-1 専門的な学びを始める前段階として、言語・文学・文化に関する理論の概要と高校までの学びを復習する Reading の科目を「専門基礎科目」として設定する。

3-2 英語でのコミュニケーション能力向上のため、英語の使用を促進する必修科目として、4年間にわたる「English Communication 科目」を設定する。

DP4の達成に向けて

4-1 英語への理解を促すよう英語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

4-2 欧米の文学・文化に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう文学・文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

4-3 両学科にまたがる専門性の高い知識及び技術を学ぶ科目を「共通科目」として設定する。

日本語・日本文学科固有の方針

DP5の達成に向けて

5-1 専門的な学びを始める前段階として、言語・文学・文化に関する理論の概要と高校までの学びを復習する古文及び漢文の科目を「専門基礎科目」として設定する。

5-2 日本語への理解を促すよう日本語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

5-3 日本の文学に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう文学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

5-4 日本及び日本に影響を与えた国の文化に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう、文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

5-5 両学科にまたがる専門性の高い知識及び技術を学ぶ科目を「共通科目」として設定する。

○大学社会福祉学部

- 1 入学者一人一人が自ら考え、自ら行動することを通じて様々な生活課題を有する人や様々な課題を抱える地域を理解し、社会福祉および関連領域の知識や技能を総合的に活用しつつ他者とも協力してその問題を解決していくための資質や能力を体得できるような教育課程を編成しています。
- 2 社会福祉実践コースでは、支援を必要とする人の生活やこころを深く理解すると共に、福祉政策や制度、インフォーマルケアを含む社会システムとの連携など、具体的支援のための方法を熟知した、福祉実践者である社会福祉士または精神保健福祉士を養成できるよう科目を設定しています。
- 3 人間科学コースでは、人間関係を築くためのコミュニケーション力や問題解決力、リサーチ力を身につけ、現代社会の課題である「共生社会」形成の担い手として、福祉領域に限らず広く社会で活躍・貢献できる人材を育成するための科目を設定しています。
- 4 社会福祉学における基本的知識、教養的知識に始まり、年次推移に従い社会福祉の専門的知識が醸成されるように順序立った科目を構成しています。

○大学看護学部

本学の教育理念、建学の精神、教育目標、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の実現を図るため、以下の教育課程を「教養科目」、「看護基礎科目」、「看護実践科目」の3本柱で編成しています。

－教育課程編成・実施の方針－

- 1 多様な知識、多様な文化や価値観を理解するため、「人間と文化・社会」、「人間と言語」、「人間と自然科学」、「総合科目」から構成する教養科目を設置しています。
- 2 必要な人体や病態を理解する専門科目の基盤として、「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」、「健康支援と社会保障制度」の科目を看護基礎科目として設置しています。
- 3 看護を実践するための基本となる能力、看護ケアの展開能力、看護実践の中で研鑽する能力を修得するために、「看護の実践」、「看護の統合」、「臨地実習」などを体系的に学修できるように看護実践科目を設置しています。
- 4 保健師教育は選択制です。看護師、保健師はそれぞれの専門性と必修科目を2年次に、保健師選択の科目および相互の連携共同に関する科目を3年次に配置しています。
- 5 初年次教育から卒業後に向けての準備までの体系的キャリア教育プログラムに基づいた科目を配置しています。

－教育方法と評価方法－

- 6 大学における学修への円滑な移行を促すため初年次教育に関する科目を配置し、主体的学修への転換を図り、自ら探求する姿勢を育成します。
- 7 3つのポリシーに照らした大学の取り組みの評価については、PDCAサイクルで行います。
- 8 教育方法として、主体性とコミュニケーション能力を育成するために、地域活動および授業内での共同学習といった、多様で互恵的な学びの機会を設けています。
- 9 各科目の内容に応じた適正な評価方法をシラバス（授業計画）に明記し、「姿勢・態度」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」など様々

な視点から学修成果の評価を行います。また、標準化された学習目標の到達度を適用し、専門職として必要な能力を評価します。

③入学者の受入れに関する方針

○大学院社会福祉学研究科

社会福祉学研究科は、社会福祉学に関する基礎的知識（学部卒業程度）を有する者で、高度な専門的能力の修得を目指す者や、すでに社会福祉分野で職業人として活躍しながら更なる能力向上を目指す者などが、現代社会の社会福祉に関連する諸問題を解決するための研究力あるいは実践力を修得することに意欲を持っている人を受け入れます。

評価の方法については、論文記述（専門科目）試験、面接試験審査、出願書類審査および健康診断の結果により、総合的に評価します。

○大学院文学研究科

建学の精神「畏神愛人」を理解し、日本語・日本文学・日本文化に関して、基礎的な理解、知識と課題分析能力を有し、深く探究しようとする人、また、各分野における地域の特質の解明とともに、それを総合的に把握しようとする人、さらに、その研究を通して地域社会の発展に寄与しようとする人を受け入れる。

○弘前学院大学

弘前学院大学は、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則って自らの未来をデザインし、その実現のために積極的に学修に取り組む創造的人間の育成を目指しています。（「オーダーメイド教育」）そこで本学は、入学を希望する者に対して建学の精神、神を畏れ敬い人を愛する心「畏神愛人」を理解し、高等学校までの教育で育成が期待される「学力の三要素」に基づく基礎的な学習能力を備えていることを求めます。

また、それらの能力を多面的に評価することを基本方針として選抜を実施します。具体的には、

- 1 弘前学院大学の建学の精神を理解し、自身の人生目的に照らして本学での学修を希望すること。
- 2 高等学校までの教育において到達目標とされている基礎学力を習得していること。
- 3 課題に取り組む思考力や判断力を有し、自分の考えを適確に表現する力を有すること。
- 4 問題解決のために主体性を持って多様な人々と協働して取り組んでいく資質と意欲を有すること。

○大学文学部

文学部では、「英語圏あるいは日本や地域の言葉、文学、文化に強い関心を持つ人」「それらを学ぶことを通して人間の営みについて考えを深め、鋭い感受性、論理的な思考力や柔軟な理解力を持ち、自分の言葉で明快に表現しようとする人」を求めています。具体的には、次のような学生です。

- 1 言語・文学・文化を学ぶための基礎的な日本語力・英語力を身に付けた人
- 2 論理的な思考力と明快な表現力を持つ人
- 3 多様なバックグラウンドを持つ他の学生と協調して勉学・研究を進めることができる人

○大学社会福祉学部

社会福祉学部の目的は建学の精神である『畏神愛人』（人間尊重）の立場から「子どもからお年寄りまであらゆる人が抱える生活課題に強い関心を持ち、その問題解決のために必要な専門知識を身につけた人材、および健康や美しいもの、崇高なものに対する正しい知識や価値観をもつ人材」を育成することです。そのために、社会福祉学部では具体的に以下のような学生を求めています。

- 1 高等学校において、学習を通じて基礎的な能力を身につけた人
- 2 社会に起こる様々な問題を正しく捉え、その解決に向けて自ら考え、判断し、表現できる力を身につけた人
- 3 生活の中で培ってきた人間性や協調性を入学後も発展させ、社会福祉の専門的技術を習得して社会に貢献したいという意欲を持つ人

○大学看護学部

弘前学院大学は、建学の精神である「畏神愛人」に基づく教育・研究を行い、豊かな人間性と深い教養をそなえ、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目指しています。

本学では、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、意欲、適正をそなえた学生を求めています。

－姿勢・態度－

- 1 人と触れ合うことが好きであり、人々の健康と生活を支える専門職を目指す意欲がある人です。
- 2 大学生活を通して様々なことを自ら学ぶ姿勢を有している人です。

－知識・技能－

- 3 入学後の学修に必要な基礎学力を有する人です。
- 4 看護職として活躍していくためのコミュニケーション能力を身につける素地を有する人です。

－思考力・判断力・表現力－

- 5 物事を論理的に考え、自分の考えを説明できる人です。
- 6 他者に関心を持ち、多様な価値観を持つ人を尊重することができる人です。

－主体性・多様性・協働性－

- 7 自ら力を発揮しながら様々な人と協力し、主体的に問題解決ができる人です。
- 8 地域社会、国際社会に関心を持ち、貢献しようとする姿勢を有している人です。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

①中期的な計画

ア) 中長期目標実施計画

第Ⅰ期 平成29年度～平成31年度(3ヵ年)

第Ⅱ期 令和2年度～令和4年度(3ヵ年)

第Ⅲ期 令和5年度～令和7年度(3ヵ年)を策定した。

イ) 学校法人弘前学院経営改善計画

第Ⅰ期 平成30年度～令和4年度(5ヵ年)

第Ⅱ期 令和5年度～令和9年度(5ヵ年)を策定した。

②令和5年度主な事業計画の進捗・達成状況

ア)「高等教育の修学支援新制度」による学生の修学支援

令和2年度より実施されている国の修学支援新制度は、文部科学省から承認を受けた大学に在学する住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯の学生に対し、大学を通じて入学金・授業料の支援を行うものである。

令和5年度も継続されている。

イ) 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス発生以来、大学および中学高等学校においては感染症対策を徹底し万全の体制で臨んでいる。

令和5年度も各学校にて、学生・生徒の様々な状況に応じて、対面授業とオンライン授業を組み合わせ充実した授業方法を継続し、教育効果の向上に努めた。

ウ) 聖愛中学高等学校ICT教育環境の整備・推進

生徒1人1台の学習用タブレット端末を活用した教育を推進している。デジタル教科書やデジタル教材の使用をはじめ、様々な教育支援アプリケーションやオンライン授業用機器を導入しながら、生徒の学習への興味・関心を高め、より分かりやすい授業を実現している。また、校内各所のWi-Fiネットワーク環境の整備も進んでおり、今後も快適なICT環境整備を推進していく。

エ) 弘前学院大学自己点検・自己評価の積極的な取り組み

教育研究活動の状況について、自ら点検および評価を行う組織として、弘前学院大学自己点検・自己評価委員会規則に則り、学長を委員長とした「弘前学院大学自己点検・自己評価委員会」、「弘前学院大学自己点検・自己評価実施委員会」を設置し、この組織を中心として教育目標や組織目標の実現に向け、それらの目標達成状況および各種課題の改善状況等に関する定期的な自己点検・自己評価を実施し、その結果を踏まえ改善・改革(PDCAサイクル)のための計画を策定し実行した。

オ) 弘前学院大学ガバナンス・コードの積極的な取り組み

私立学校法改正により学校法人の自律的なガバナンスの改善・強化に対応するため、公共性と自立性を基本にし、弘前学院大学の実情に応じた自立的な指針となる「弘前学院大学ガバナンス・コード」(自主行動規範)を制定し、それらの目標達成を目指し積極的に取り組んでいる。

「弘前学院大学ガバナンス・コード 自主行動規範、令和3年4月1日第一回改訂版」

- ・第1章 法人の建学の精神・理念及び教育目的
- ・第2章 学校法人運営の基本
- ・第3章 教学ガバナンス(権限・役割の明確化)
- ・第4章 公共性・信頼性の向上(ステークホルダーとの関係)
- ・第5章 透明性の確保(情報公開)

以上に関しては、令和5年8月31日に点検評価し、その遵守状況を大学公式サイトに公開をしている。

カ) 大学認証評価への対応

弘前学院大学は公益財団法人大学基準協会に加盟以来、2度の審査を受け何れも「適合」の判定を受け、3度目についても令和2年3月26日付けにて大学基準に適合していると認定された。

認定期間は、2020(令和2)年4月1日から2025(令和7)年3月31日までである。令和5年度現在、前回の評価で指摘された「必ず実現すべき改善事項」および「一層の改善が期待される事項」について十分留意し、学内の自己点検・自己評価委員会、認証評価委員会の会議を開催し協議を行ってきた。

キ) 施設整備状況

・弘前学院大学校舎空調設置工事

学生に望ましい教育環境を提供することを目的に、大学校舎1号館、2号館、6号館(看護学部棟)講義室にエアコンを設置した。

・弘前学院聖愛中学高等学校トイレ改修工事

中学高等学校男女トイレ洋式化改修工事を行い、生徒及び教職員が日常的に使用する生活空間における学校教育活動に適した良好な環境を確保することができた。

3. 財務の概要

○学校会計と企業会計の違いおよび学校会計の特徴

学校会計と企業会計の大きな違いはその目的にあります。

企業会計は営利を目的とし、営業活動の成績を損益計算書で表し、その年度の収益と費用を正しく捉え収益力を高めることを目的としています。これに対し学校会計は営利を追求することは許されず、教育研究の遂行を目的とし、一般企業よりも高い公共性から安定的かつ永続性を保持した経営を目指すことを目的としています。そのため、文部科学省令による「学校法人会計基準」に従って会計処理を行い、「計算書類」を作成しなければなりません。「計算書類」とは資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、および附属する内訳表、明細表のことを言います。

(1) 決算の概要

① 貸借対照表関係

貸借対照表は、当該年度末における資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）の状態、つまり財政状態を表すものです。

ア) 貸借対照表の状況と経年比較

当年度の資産総額は3,452,488千円となり、前年度に比べ4.73%減少しました。一方、負債総額は1,149,286千円となり、6.91%減少しました。また、基本金と繰越収支差額を合わせた純資産額は2,303,202千円となり、前年度に比べ3.60%減少しました。

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	3,491,545	3,424,043	3,364,657	3,289,902	3,234,235
流動資産	409,530	415,031	417,190	333,942	218,253
資産の部合計	3,901,075	3,839,074	3,781,847	3,623,844	3,452,488
固定負債	1,025,205	961,625	909,292	853,475	803,655
流動負債	530,875	505,778	500,227	381,130	345,631
負債の部合計	1,556,080	1,467,403	1,409,519	1,234,605	1,149,286
基本金	5,232,861	5,262,330	5,332,795	5,385,016	5,552,171
繰越収支差額	△ 2,887,866	△ 2,890,659	△ 2,960,467	△ 2,995,777	△ 3,248,969
純資産の部合計	2,344,995	2,371,671	2,372,328	2,389,239	2,303,202
負債及び純資産の部合計	3,901,075	3,839,074	3,781,847	3,623,844	3,452,488

イ)財務比率の経年比較

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産}-\text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	-0.5年	-0.5年	-0.4年	-0.4年	-45.8年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	77.1%	82.1%	83.4%	87.6%	63.2%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	39.8%	38.2%	37.3%	34.1%	33.3%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	194.2%	209.5%	193.0%	189.3%	148.1%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	84.1%	84.4%	85.3%	86.1%	86.9%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	19.1%	18.7%	18.1%	16.0%	9.5%

② 資金収支計算書関係

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応する全ての資金の収入および支出の内容を明らかにし、更に支払資金のてん末も表すものです。

ア)資金収支計算書の状況と経年比較

当年度の資金の収入総額は1,612,856千円となり、前年度繰越支払資金316,670千円を加えた収入の合計は1,929,526千円となりました。一方、資金の支出総額は1,738,039千円となり、翌年度繰越支払資金は、前年度に比べ125,183千円減の191,487千円となりました。

(単位：千円)

収入の部					
科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒等納付金収入	1,063,301	1,070,924	1,042,706	1,062,467	1,009,544
手数料収入	16,577	15,626	15,791	14,023	12,557
寄付金収入	13,093	17,352	15,170	21,934	7,131
補助金収入	283,909	409,322	406,056	423,211	376,975
資産売却収入	0	0	0	200	0
付随事業・収益事業収入	5,519	4,755	4,265	4,898	4,313
受取利息・配当金収入	927	784	776	775	774
雑収入	70,079	60,918	76,377	45,530	47,325
借入金等収入	81,870	83,180	52,430	1,920	121,550
前受金収入	195,847	179,378	184,438	167,285	129,293
その他の収入	241,723	35,040	46,701	48,601	90,474
資金収入調整勘定	△ 216,809	△ 229,725	△ 215,156	△ 197,468	△ 187,080
前年度繰越支払資金	323,661	380,446	375,708	375,226	316,670
収入の部合計	2,079,697	2,028,000	2,005,262	1,968,602	1,929,526

支出の部					
科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	1,104,115	1,066,034	1,064,791	1,029,096	1,032,389
教育研究経費支出	305,194	317,660	329,756	358,953	329,876
管理経費支出	60,366	54,155	56,964	54,052	49,647
借入金等利息支出	14,228	13,044	11,899	10,612	9,652
借入金等返済支出	181,670	144,482	147,962	126,362	172,812
施設関係支出	20,036	8,579	3,630	0	105,820
設備関係支出	26,456	18,117	30,066	21,549	23,371
資産運用支出	7,149	6,250	5,944	4,803	4,802
その他の支出	67,114	97,467	85,138	104,232	67,270
資金支出調整勘定	△ 87,078	△ 73,496	△ 106,114	△ 57,717	△ 57,601
翌年度繰越支払資金	380,446	375,708	375,226	316,670	191,487
支出の部合計	2,079,697	2,028,000	2,005,262	1,968,602	1,929,526

イ) 活動区分資金収支計算書の経年比較

(単位：千円)

科 目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,446,068	1,568,656	1,555,912	1,569,146	1,454,879
教育活動資金支出計	1,469,676	1,437,849	1,451,511	1,442,091	1,411,912
差引	△ 23,608	130,807	104,401	127,055	42,967
調整勘定等	43,183	△ 38,417	14,600	△ 39,129	△ 50,561
教育活動資金収支差額	19,575	92,390	119,001	87,926	△ 7,594
施設整備等活動による資金収支					
施設設備等活動資金収入計	6,409	10,240	4,454	3,118	56,537
施設整備等活動資金支出計	49,616	29,820	36,518	23,950	131,592
差引	△ 43,207	△ 19,580	△ 32,064	△ 20,832	△ 75,055
調整勘定等	203,431	△ 2,394	18,611	7,792	7,940
施設整備等活動資金収支差額	160,224	△ 21,974	△ 13,453	△ 13,040	△ 67,115
小計 (教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	179,799	70,416	105,548	74,886	△ 74,709
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	95,999	97,387	68,373	17,228	148,425
その他の活動資金支出計	219,674	172,965	174,876	151,196	198,452
差引	△ 123,675	△ 75,578	△ 106,503	△ 133,968	△ 50,027
調整勘定等	661	424	473	527	△ 477
その他の活動資金収支差額	△ 123,014	△ 75,154	△ 106,030	△ 133,441	△ 50,504
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額)	56,785	△ 4,738	△ 482	△ 58,555	△ 125,213
前年度繰越支払資金	323,661	380,446	375,708	375,226	316,670
翌年度繰越支払資金	380,446	375,708	375,226	316,670	191,457

ウ)財務比率の経年比較

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動資金 収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	1.3%	5.9%	7.6%	5.6%	-0.5%

③ 事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書は、当該会計年度の3つの活動（教育活動、教育活動以外、特別活動）に対応する事業活動収入および支出の内容を明らかにし、かつ、各年度の収支の均衡を明らかにするものです。

一般企業会計の損益計算書にあたります。

ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

当年度の教育活動収支において、収入計1,417,035千円、支出計1,497,299千円となったことにより、教育活動収支差額は△80,264千円となり、前年度に比べ102,679千円の減となりました。このうち教育研究経費・管理経費に含まれている減価償却額は121,503千円です。

一方、教育活動外収支においては、収入計774千円、支出計9,652千円となったことにより、教育活動外収支差額は△8,878千円となり、前年度に比べ959千円の増となりました。

以上の結果により、当年度の経常収支差額は△89,142千円となり、前年度に比べ101,720千円の増となりました。

また、特別収支において、収入計3,916千円、支出計811円、特別収支差額3,105千円となり、前年度に比べ1,226千円の減となりました。

経常収支差額に特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額は△86,037千円となり、前年度に比べ102,946千円の減となり基本金組入後の当年度収支差額は△253,192千円となりました。

(単位：千円)

科 目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,063,301	1,070,924	1,042,706	1,062,467	1,009,544
	手数料	16,576	15,626	15,791	14,023	12,557
	寄付金	11,443	13,105	13,820	20,584	5,669
	経常費等補助金	279,150	403,342	402,952	421,643	375,472
	付随事業収入	5,519	4,755	4,265	4,898	4,313
	雑収入	3,761	12,181	21,766	8,592	9,480
	教育活動収入計	1,379,750	1,519,933	1,501,300	1,532,207	1,417,035
	事業活動支出の部					
	人件費	1,039,378	1,017,950	1,010,017	993,111	996,272
	教育研究経費	413,028	412,443	418,842	451,150	441,474
	管理経費	68,381	62,704	66,218	63,336	59,553
	徴収不能額等	8,421	1,739	1,400	2,195	0
	教育活動支出計	1,529,208	1,494,836	1,496,477	1,509,792	1,497,299
教育活動収支差額	△149,458	25,097	4,823	22,415	△80,264	

教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	928	784	776	775	774
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	928	784	776	775	774
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	14,228	13,044	11,899	10,612	9,652
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
教育活動外支出計	14,228	13,044	11,899	10,612	9,652	
教育活動外収支差額	△ 13,300	△ 12,260	△ 11,123	△ 9,837	△ 8,878	
経常収支差額	△ 162,758	12,837	△ 6,300	12,578	△ 89,142	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	200	0
	その他の特別収入	7,260	13,884	7,021	4,132	3,916
	特別収入計	7,260	13,884	7,021	4,332	3,916
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	63,274	44	64	1	811
その他の特別支出	0	0	0	0	0	
特別支出計	63,274	44	64	1	811	
特別収支差額	△ 56,014	13,840	6,957	4,331	3,105	
基本金組入前当年度収支差額	△ 218,772	26,677	657	16,909	△ 86,037	
基本金組入額合計	0	△ 29,469	△ 70,466	△ 52,221	△ 167,155	
当年度収支差額	△ 218,772	△ 2,792	△ 69,809	△ 35,312	△ 253,192	
前年度繰越収支差額	△ 2,909,246	△ 2,887,865	△ 2,890,657	△ 2,960,466	△ 2,995,778	
基本金取崩額	240,153	0	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 2,887,865	△ 2,890,657	△ 2,960,466	△ 2,995,778	△ 3,248,970	
(参考)						
事業活動収入計	1,387,938	1,534,601	1,509,097	1,537,314	1,421,725	
事業活動支出計	1,606,710	1,507,924	1,508,440	1,520,405	1,507,762	

イ) 財務比率の経年比較

比率名	算式	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入※}}$	75.2%	66.9%	67.2%	64.8%	70.3%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入※}}$	29.9%	27.1%	27.9%	29.4%	31.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入※}}$	4.9%	4.1%	4.4%	4.1%	4.2%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入計}}$	-15.7%	1.7%	0.0%	1.1%	-6.1%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入※}}$	77.0%	70.4%	69.4%	69.3%	71.2%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入※}}$	-11.7%	0.8%	-0.4%	0.8%	-6.3%

※経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

(2) その他

①関連当事者等との取引の状況

ア)出資会社

該当なし。

②学校法人間財務取引

該当なし。

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

平成 30 年度から「学校法人弘前学院経営改善計画（5 年計画）」を策定し、計画全体を牽引するため「弘前学院経営改善実行会議」を設置した。特に改革実行に当たり次の重点項目を定めている。

○「学校法人弘前学院経営改善計画（5 年計画）」重点 5 項目

①スクール・モットー「畏神愛人」の再認識と教育活動全体への反映

弘前学院は福音主義キリスト教に基づいて学校教育を行い、神を畏れかつ謙虚に真理を探究し、隣人愛に立ってすべての人の人格を尊重し、人類の福祉と世界の平和に貢献できる人間の育成を目標にしてきた。スクール・モットーは「畏神愛人」である。今後ともこの方針は不変である。

②「弘前学院経営改善実行会議」による改革全体の牽引と改革状況のチェック

改革の成果をあげるためには責任と権限を持った会議体を整備し、改革全体を牽引する必要があることから、「弘前学院経営改善実行会議」を設置し、理事長出席の下に毎月開催している。

主な実施計画に関する「具体的な取組内容と実績・成果」並びに「自己評価及び改善策等」については、実施管理表で年度別に公表している。

③学生・生徒募集対策の強化と実施

ア) 学生・生徒一人ひとりに目を向けた手厚い教育・指導の実現

イ) 学生の出身高校と幅広く接続する大学教育（高大接続の徹底）

ウ) 大学教育力の強化（教養教育の統一、社会福祉学部、文学部英語・英米文学科）

エ) 聖愛中学校・高等学校の教育指導力の強化と高等学校の大学進学実績の強化

大学は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、人数制限を設けオープンキャンパス来校型が 4 回、L I N E 開催が 4 回開催された。高校訪問数は前年度並みとなった。

令和 2 年度以降、新たに受験生の利便性を図るために W e b 出願を開始した。

中学高等学校は、15 歳人口減少の影響があるものの早期に対策を講じる必要から、生徒募集に関する委員会組織を機能させて速やかに実行できるよう対策を講じている。

④大学の競争的補助金の獲得

受託研究費や競争的補助金については、申請件数および受託件数・金額ともに他大学に比してかなり低い状態である。

科研費については、大学全体目標の設定、申請促進の支援、教員個々のノルマ設定、評価システムの設定および事務的支援体制の確立など対応策を講じて申請を促している。

競争的補助金については、補助金対策委員会を設置して補助金獲得の取組みを行っており、大学全教職員の理解と協力のもと教育の質向上を目指して学内改革を進めている。

⑤地域との連携

これまで地元企業2社、弘前市および弘前商工会議所との連携協定を締結している。

現在「大学社会連携推進会議」の下で、大学コンソーシアム学都弘前との協定および弘前学院大学と聖愛高等学校間での高大連携連絡協議会が設置されている。また、地域の枠を超えるものとして、弘前学院大学と青山学院大学との協定が締結された。交流行事については、コロナ禍のため一時中断していたが、令和5年度から教員1名、学生3名が青山学院大学を訪問し教育交流を行っている。

- ・「大学教育の質保証に関する協議会」では、本学の3つのポリシーを踏まえた点検・評価に当たって、市および商工会議所の職員が出席し客観的な意見を取入れている。
- ・弘前市役所との連携実施事業として、「hug work サテライト型事業」を本学構内で行っている。出店事業所スタッフ、学生ボランティア、大学教職員、市役所職員の支援をいただき、物品販売は好評を得ている。令和3年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け中止となったが、令和5年度は復活している。
- ・五所川原商業高等学校(現下山学園高等学校)、青森県立鯉ヶ沢高等学校、青森県立弘前南高等学校、青森県立黒石高等学校と高大連携協定を締結し、高校生が大学で学ぶ場を増やし、大学教員が高校で授業を行う取り組みにより、相互の教育についての情報交換及び交流を図っていくこととした。
- ・弘前市および弘前市稔町町会と連携した除雪ボランティア活動は、暖冬により降雪量が減少したため活動を見合わせたが、令和6年度は第2・第4木曜日の月2回活動する予定である。

各学校経営目標について、大学・大学院は教育の質保証・向上、学生に明確な付加価値をつける、時代の変化に対応した大学改革推進、就職対策の研究と強化、大学認証評価への対応整備等の達成を目指している。

中学高等学校は生徒が望む進路目標の達成、部活動振興による学校生活の活性化、中高一貫教育の推進等を掲げ達成を目指している。

また、学生・生徒に本物の教育を施すこと、教育環境の整備として施設設備の維持・改善、教職員待遇の維持、教育方法の研究改善、奨学金制度の充実など計画的に実施している。

「学生・生徒定員確保は弘前学院の生命線である」という課題については、積極的な学生・生徒募集活動の展開、入学試験制度の不断の研究改善を通して対策を講じている。

施設等整備計画では、耐震診断調査を実施した結果、大学校舎 1 号館は改築、校舎 2 号館、体育館は補強。中学高等学校校舎および第 1・第 2 体育館は何れも補強という判定結果が出た。大学校舎 2 号館、体育館は平成 29 年度に補強を実施し、大学校舎 1 号館は平成 30 年度改築工事、旧 1 号館は令和元年度に解体工事を実施し大学耐震化は完了した。

中学高等学校校舎の補強については、対象面積が大学の補強・改築対象面積の倍近い面積であること、仮設校舎が必要とされること、建築資材の価格高騰が続き今後も高騰が予想されること等、今後は補強または改築を含めた具体的な検討が必要となる。

今後、競争的環境がさらに激しくなる中で、経営基盤である財源の充実・強化は喫緊の課題である。教育研究活動に必要な財源を安定的に確保するため、中長期的な視野から財務基盤を強化していく必要がある。その方策として、寄付金、補助金の増収、人件費削減、重要度・緊急性を精査し不要不急の支出を抑制する等の対策を講じている。

4. 学事報告

(1) P T A ・ 後援会 ・ 校友会 ・ 奨学事業会

令和6年3月31日現在

① P T A 関係

・ 大 学

会 長 佐 藤 和 博
副 会 長 西 川 いつ美

・ 中学校

会 長 成 田 大 介
副会長1年 中 田 祐 介
副会長2年 原 田 佳 澄
副会長3年 (不 在)
副会長教頭 松 野 徹 也

・ 高等学校

会 長 石 山 敬
副会長1年 山 本 真
副会長2年 對 馬 雅 人
副会長3年 今 幸 信
副会長教頭 小野寺 仁

② 一般社団法人弘前学院後援会

理 事 長 野 澤 武
理 事 長 内 幸 子
同 上 椎 名 啓 祐

③ 校友会

会 長 長 内 幸 子
副 会 長 山 内 清 子

④ 奨学事業会

会 長 椎 名 啓 祐
副 会 長 長 内 幸 子
同 上 野 澤 武

(2) 学校行事・卒業者数

① 法人本部

- 4月 1日 本部主催辞令交付式
- 4日 会計監査①
- 5月 8日 会計監査②
- 9日 会計監査③
- 22日 第1回 常務理事会
- 30日 第1回 理事会、第1回 評議員会
- 6月 12日 第2回 常務理事会
- 13日 第3回 常務理事会
- 23日 弘前学院後援会総会
- 26日 第1回 団体交渉
- 7月 1日 校友会総会
- 7月 7日 弘前学院奨学事業会運営委員会、
一般社団法人弘前学院後援会設立総会・第1回理事会
- 13日 故阿保邦弘氏追悼記念礼拝
- 10月 5日 第4回 常務理事会
- 12月 13日 第5回 常務理事会
- 4日 会計監査③
- 15日 第2回 理事会
- 2月 15日 第2回 団体交渉
- 19日 第6回 常務理事会
- 28日 第3回 理事会、第2回 評議員会
- 3月 25日 第7回 常務理事会
- 21日 会計監査④
- 28日 第4回 理事会、(一社)弘前学院後援会第2回理事会
- 30日 本部主催退職辞令交付式

②大学・大学院

4月	1日	全学教職員集会
	4日	在学生オリエンテーション
	5日	入学式
	6日	新入生オリエンテーション
	7日～8日	履修登録(全学部2～4年)、新入生リトリート(学内)
	8日	地方上級型公務員模試
	10日	全学部前期開講
	13日	入学記念礼拝、文学部健康診断、就職オリエンテーション(全学部3年)
	14日～15日	履修登録確認(全学部2～4年)
	17日	昭栄広報主催進学相談会(大館会場)
	17日～18日	履修登録(全学部1年)
	19日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(五所川原会場)
	20日	社会福祉学部健康診断、インターンシップガイダンス (文学部・社会福祉学部3年)、就活基礎力講座①(看護学部3年)
	24日	昭栄広報主催進学相談会(弘前会場)
	24日～25日	履修登録確認(全学部1年)
	25日	英語・英米文学会総会、英語・英米文学科主催新入生ウェルカムパーティー
	27日	看護学部健康診断、大学新聞社主催進学相談会(青森会場)、青森県教員採用試験説明会(文学部・社会福祉学部)、就活基礎力講座②(看護学部3年)
5月	8日～31日	就職個人面談(文学部・社会福祉学部3年)
	9日	昭栄広報主催進学相談会(青森会場)
	10日	昭栄広報主催進学相談会(八戸会場)
	11日	就活基礎力講座③(看護学部3年)、教員講座ガイダンス(前期・全学部1～3年)
	18日	自己分析の活用(社会福祉学部2～3年)、就活基礎力講座④(看護学部3年)
	19日	英語・英米文学科イースターパーティー
	22日	栄美通信主催進学相談会【前期】(弘前会場)
	25日	教職員健康診断、3年生リトリート、就職オリエンテーション (文学部・社会福祉学部2年)
	27日	第1回市役所型模試
	29日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(大館会場)
	31日	特待生授与式(全学年2～4年)
6月～2月		高校訪問
	1日～30日	就職個人面談(文学部・社会福祉学部3年)
	1日	父母と教職員の会学内常任委員会、適性診断と業界研究 (社会福祉学部2～3年)、就活基礎力講座⑤(看護学部3年)
	3日	父母と教職員の会役員会・総会
	8日	公務員講座ガイダンス(前期・全学部1～3年)
	9日	本学主催高校教員対象説明会(青森会場)
	12日	本学主催高校教員対象説明会(弘前会場)
6月	15日	福祉の就活スタートアップ講座(社会福祉学部3年)
	22日	創立記念礼拝・教職員研修会

6月23日	教員採用ガイダンス
25日	創立記念日
29日	就職活動全体像(文学部・社会福祉学部2~3年)
7月3日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(むつ会場)
5日	学年成績優秀者表彰式(文学部2~4年)
6日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(十和田会場)、 職業考話①(文学部・社会福祉学部、全学年)
8日	国語国文学会夏季大会
13日	夏季休業直前就活講座(文学部・社会福祉学部3年)、 就職オリエンテーション(看護学部2年)
16日	第1回オープンキャンパス(来校型・オンライン)
19日	国語国文学会総会
20日	ライセンスアカデミー医療・福祉学習フェア進学相談会(青森会場)
21日	ライセンスアカデミー医療・福祉学習フェア進学相談会(弘前会場)
24日	成績提出(看護学部3年)
25日	前期成績発表(看護学部3年)
26日	マイナビ主催進学相談会(青森会場)
27日	英語弁論大会
29日	青森県看護協会主催看護大学進路説明会、第2回市役所型模試
8月5日~9月22日	全学部夏季休業、インターンシップ実習(文学部・社会福祉学部)
5日	イングリッシュ・キャンプ
18日	9月卒業論文提出
19日	前期成績提出(看護学部3年を除く)
20日	第2回オープンキャンパス(来校型・オンライン)
29日	前期成績発表(看護学部1,2,4年)
30日~9月1日	日本私立大学協会東北支部事務研修会
9月4日~7日	公務員採用試験対策講座(前期・全学部)
5日~7日	再試験(看護学部1,2,4年)
12日	チエルコミュニケーションブリッジ主催進学相談会(弘前会場)
13日	再試験成績提出(看護学部1,2, チエルコミュニケーションブリッジ主催進学相談会(八戸会場)
14日	再試験成績発表(看護学部1,2,4年)、 聖愛高校2学年によるキャンパスライフ体験会
15日	履修の追加・訂正(看護学部)
17日	第3回オープンキャンパス(来校型・オンライン)
21日~22日	前期成績配布・履修追加・訂正(文学部・社会福祉学部)
22日	スポーツ大会
23日~24日	地区別父母懇談会(弘前会場)
9月25日	後期授業開講日
28日	9月期学位記授与式
10月5日	進路選択ガイダンス(社会福祉学部2~4年)、自己分析(看護学部2年)
8日	学祭、地域総合文化研究所主催講演会

10月12日	就活スタートアップ講座(文学部・社会福祉学部3年)
14日	総合型選抜入試Ⅰ期入学試験(全学部)
17日	キッズコーポレーション主催進学相談会(青森会場)
19日	選考対策①(社会福祉学部3年)、病院研究(看護学部2年)
23日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(大館会場)
26日	選考対策②(社会福祉学部3年)
27日	英語・英米文学会ハロウィンパーティー
28日	公務員共通模試
31日	青森県主催オールあおもり進学相談フェア(青森会場)
11月1日	特待生授与式(全学部1年)、総合型選抜Ⅰ期合格発表(全学部)
2日	内定報告会(社会福祉学部全学年)、これから始める就活(看護学部2年)
3日～4日	国語国文学会「文学散歩」
7日	青森県主催オールあおもり進学相談フェア(むつ会場)
9日	秋の特別礼拝、青森県主催オールあおもり進学相談フェア(弘前会場)
10日	チエルコミュニケーションブリッジ主催進学相談会(青森会場)
14日	青森県主催オールあおもり進学相談フェア(八戸会場)
16日	職業考話②(社会福祉学部全学年)
18日	学校推薦型選抜Ⅰ期入学試験(全学部)、編入前期入学試験(看護学部)
20日	チエルコミュニケーションブリッジ主催進学相談会(青森会場)
22日	学年成績優秀者表彰式(文学部1年)
23日	ヒューマンライブラリーinひろさき
30日	模擬面接会事前講習(文学部、社会福祉学部3年)
12月1日	英語・英米文学会クリスマスパーティー、学校推薦型選抜Ⅰ期合格発表(全学部)、編入前期合格発表(看護学部)
2日	看護学部リカレント教育研修会Ⅰ
7日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(青森会場)
14日	クリスマス礼拝・クリスマス音楽の夕べ、模擬面接会(社会福祉学部3年)
15日	栄美通信主催進学相談会【後期】(弘前会場)
16日	総合型選抜Ⅱ期(社会福祉学部)、学校推薦型選抜Ⅱ期入学試験(文学部、看護学部)
20日～21日	卒業論文提出(文学部)
23日	弘前学院大学ギビングツリーin弘前
25日	総合型選抜Ⅱ期(社会福祉学部)、学校推薦型選抜Ⅱ期合格発表(文学部、看護学部)
25日～1月10日	全学部冬季休業
1月11日	全学部授業開始、就活総まとめ(文学部、社会福祉学部3年)
13日	国語国文学会冬季大会、日本語・日本文学科卒業論文発表会
18日	学内就職セミナー事前説明会(文学部、社会福祉学部2～4年)、教員・公務員対策講座(後期)ガイダンス(全学部)
1月20日	学校推薦型選抜Ⅲ期入学試験(文学部)
25日	大学新聞社主催進学相談会(青森会場)
27日	英語・英米文学科卒業論文発表会、看護学部リカレント教育研修会Ⅱ、学校推薦型選抜Ⅲ期入学試験(文学部)合格発表
29日	ライセンスアカデミー主催進学相談会(函館会場)

2月	3日～	4日	精神保健福祉士国家試験
	4日		社会福祉士国家試験
	5日		後期授業終了日
	7日		一般選抜Ⅰ期入学試験(全学部)
	9日		成績提出(文学部・社会福祉学部4年)、保健師国家試験、 後期公務員対策講座(1日目)
	11日		看護師国家試験
	13日		病院合同説明会事前説明会(看護学部2～3年)
	13日～	14日	成績発表(看護学部)
	14日		一般選抜Ⅰ期、大学入学共通テスト利用入試A日程(全学部)合格発表
	14日～	16日	後期公務員対策講座(2～4日目)
	15日～	17日	再試験(看護学部)
	16日		大学院一般(後期)入学試験(文学研究科)、 ライセンスアカデミー主催進学相談会(弘前会場)
	16日～	19日	成績発表及び再試験(文学部・社会福祉学部4年)
	17日		公務員共通確認模試
	19日		再試験・成績提出(文学部・社会福祉学部1～3年)
	19日～	22日	後期教員採用試験対策講座(文学部・社会福祉学部)
	22日		再試験成績提出(看護学部)
	24日		再試験成績発表(看護学部)
	26日		大学院一般(後期)合格発表(文学研究科)
3月	2日		第2回教員採用模試(文学部・社会福祉学部)
	4日		総合型選抜Ⅲ期入学試験(文学部、社会福祉学部)、 一般選抜Ⅱ期入学試験(全学部)
	5日		社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格発表
	6日		学内就職セミナー(文学部・社会福祉学部)
	9日		総合型選抜Ⅲ期(文学部、社会福祉学部)、一般選抜Ⅱ期(全学部)、 大学入学共通テスト利用入試B日程(全学部)合格発表
	11日		病院合同説明会(看護学部)
	15日		卒業記念礼拝・学位記授与式リハーサル
	16日		学位記授与式
	22日		看護師・保健師国家試験合格発表
	23日		大学入学共通テスト利用C日程合格発表(全学部)、 第4回オープンキャンパス(来校型)、地方上級型公務員模試

令和5年度 卒業者数

学部・学科・研究科		卒業者
文学部	英語・英米文学科	38
	日本語・日本文学科	49
社会福祉学部	社会福祉学科	47
看護学部	看護学科	64
大学院	文学研究科	2
	社会福祉学研究科	0
計		200

③中学校

4月	5日	教職員修養会
	6日	非常勤講師辞令交付式、職員会議、その他会議
	7日	入学式準備（2・3学年）、中学高校入学式
	10日	始業式、オリエンテーション
	11日	身体測定、オリエンテーション、防災訓練
	12日	授業開始、ICTオリエンテーション（1学年）
	12日	生徒会歓迎会、部紹介
	13日	スタディサプリア登録説明会（1学年）、歯科検診（3学年）
	17日	心電図検査（1学年）
	19日	内科検診
	20日	歯科検診（2学年）
	24日	ICT研修会、職員会議
	25日	尿検査一次
	26日	眼科検診
	28日	授業参観・学年懇談会、PTA総会
5月	2日	教職員健康診断Ⅰ
	10日	津軽三味線体験授業①（3学年）
	11日	中間試験、尿検査二次、PTA組織会
	12日	写生会
	15日	耳鼻科検診、交通安全教室
	18日	歯科検診（1学年）、生徒総会、職員会議
	19日	サイエンススクール（1学年）
	24日	津軽三味線体験授業②（3学年）
	31日	津軽三味線体験授業③（3学年）
6月	2日	特編授業
	8日	中体連壮行式、高校総体報告会、東北大会壮行式
	10日	吹奏楽部定期演奏会（弘前市民会館）
	10日～11日	中体連
	13日～14日	ものづくり講座（3学年）
	16日	花の日礼拝
	19日	SOS出し方指導
	20日	教育相談全体研修会、法人主催研修会
	22日	運動会
	23日	創立記念礼拝
	25日	創立記念日
	27日	職員会議
7月	6日～7日	期末試験
	11日	薬物乱用防止講話
	14日	職員会議
	18日～21日	文化の集い準備
	22日	文化の集い（本校）
	24日	文化の集い（弘前市民会館）
	25日	終業式、大掃除

7月26日～8月27日	夏季休業
31日	7/22分振替休日
8月14日	8/19分振替休日
19日	中学校体験入学1
21日	中学校出校（1・2学年）、ESC（3学年）
28日	始業式、学力診断テスト
31日	職員会議
9月4日	ハンドベル体験講座（1学年）
6日	サイエンススクール（2学年）
7日	キリスト教教育デー
15日	スポーツ大会（青森県武道館）
20日	職員会議
22日	中学校説明会（ヒロロ）
28日～29日	中間試験
29日	中学校説明会
10月2日	演劇教室（弘前市民会館）
3日	教職員健康診断Ⅱ
12日～17日	語学研修（3学年）
13日	遠足（1・2学年）
18日～19日	振替休業（3学年）
20日	教育相談全体研修会、職員会議
23日	防災訓練
24日	授業参観・学級懇談
27日	高校体験入学準備
28日	高校体験入学
30日	10/28振替休日
31日	立会演説会
11月2日	被ばくピアノに学ぶ日
8日	ICT全体研修会、職員会議
11日	中学校体験入学2
13日	11/11振替休日
22日・24日	期末試験
27日	クリスマスツリー点灯式
12月4日	語学研修報告
8日	中学校説明会（ヒロロ）
12日	成績会議
13日	教科研修会
14日	生徒総会、職員会議
15日	キャロリング
20日	音楽練習
22日	終業式、大掃除、クリスマスリハーサル、追悼礼拝
23日	クリスマス（弘前市民会館）
24日～1月14日	冬季休業
25日	12/23振替休日

12月26日～1月11日	中学校入試願書受付
1月5日	1/13分振替休
10日	クリスマス後片付け
11日	1/20分振替休
13日	中学校入試
15日	始業式、学力診断テスト
16日	防災訓練、中学校入試合否判定会議、職員会議
17日	中学校入試合格発表
19日	高校推薦入試準備、高校推薦入試・内進生面接
20日	中学校入学者説明会
31日	職員会議
2月1日	スキー教室（1・2学年）
6日	高校一般入試（3学年聖愛模試、1・2学年休業日）
7日	高校一般入試採点日（生徒休業日）
8日	卒業認定会議
15日	卒業レポート発表会
16日	追認・職員会議
29日	高校卒業式総練習、生徒会記念品贈呈・各賞表彰
3月1日	高校卒業式
7日～8日	期末試験
11日	中学校卒業式練習・準備、職員会議
12日	中学校卒業式総練習
13日	中学校卒業式
14日	特編授業（1・2学年）、成績会議
15日	終業式、退任式、大清掃、教室整備
16日	高校入学者説明会・内進学説明会
25日	追認・職員会議
27日	3/16分振替休日
29日	教員室移動

令和5年度 卒業者数

20名

③高等学校

4月5日	教職員修養会
6日	非常勤講師辞令交付式、職員会議、その他会議
7日	入学式準備（2・3学年）、中学高校入学式
10日	始業式、オリエンテーション
11日	身体測定、オリエンテーション、防災訓練
12日	授業開始、ICTオリエンテーション（1学年）
12日	生徒会歓迎会、部紹介
13日	スタディサプリ登録説明会（1学年）、歯科検診（3学年）
14日	到達度テスト、胸部X線検査（1学年）
17日	心電図検査（1学年）
18日	内科検診（2・3学年）

4月19日	内科検診（1学年）
20日	歯科検診（2学年）
21日	PTA 総会
24日	ICT 研修会、職員会議
25日	尿検査一次
26日	眼科検診
5月 2日	教職員健康診断 I
11日	中間試験、PTA 組織会、尿検査二次
12日	中間試験、Web-QU
15日	耳鼻科検診（1学年）、交通安全教室
18日	歯科検診（1学年）、生徒総会、職員会議
24日	尿検査三次
30日	教育課程説明会（1学年）
6月 1日	高校総体壮行式
2日～5日	高校総体
8日	高校総体報告会、東北大会壮行式、中体連壮行式
10日	吹奏楽部定期演奏会（弘前市民会館）
13日	教育課程説明会（2学年）、進路講話（3学年）
15日	花の日礼拝
19日	SOS 出し方指導
20日	教育相談全体研修会、法人主催研修会
22日	運動会
23日	創立記念礼拝
25日	創立記念日
27日	職員会議
7月 4日～7日	期末試験
6日	企業説明会（3学年）
7日	面接対策講座 I（3学年）
11日	薬物乱用防止講話
14日	職員会議
18日～21日	文化の集い準備
22日	文化の集い（本校）
24日	文化の集い（弘前市民会館）
25日	終業式、大掃除
26日～8月27日	夏季休業
31日	7/22 分振替休日
8月23日	高校サイエンススクール
28日	始業式、実力テスト
31日	職員会議
9月 7日	キリスト教教育デー
12日～13日	弘前学院大学授業研究
14日	キャンパスライフ体験会（2学年）、キャリアデザインセミナー（2学年）
15日	スポーツ大会（青森県武道館）
20日	職員会議
27日～29日	中間試験

9月29日	Web-QU、面接対策講座Ⅱ（3学年）
10月 2日	演劇教室（弘前市民会館）
3日	教職員健康診断Ⅱ
4日	高校入試説明会（塾・中学校）（弘前パークホテル）
12日	遠足（1学年）
20日	教育相談全体研修会、職員会議
21日～22日	夢ナビライブ 2023
23日	防災訓練
26日	英語暗唱大会（1・2学年）
27日	高校体験入学準備
28日	高校体験入学
30日	10/28 振替休日
31日	立会演説会
11月 1日	到達度テスト（1・2学年）
2日	被ばくピアノに学ぶ日
2日	英語暗唱大会（1学年）、修学旅行全指1（2学年）
8日	ICT 全体研修会、職員会議
20日～22日	期末試験
24日	期末試験、校内進路ガイダンス
27日	クリスマスツリー点灯式
28日	学年レク（2学年）
12月 1日	修学旅行全指2（2学年）
4日～9日	修学旅行（2学年）
6日	スポーツ大会（1学年）
7日	ICT 研修会（1学年）
11日	志望理由書書き方講座（2学年）
12日	成績会議
13日	教科研修会
14日	生徒総会、職員会議
15日	キャロリング
21日	音楽練習
22日	終業式、大掃除、クリスマスリハーサル、追悼礼拝
23日	クリスマス（弘前市民会館）
24日～1月14日	冬季休業
25日	12/23 振替休日
1月9日～12日	高校推薦入試願書受付
10日	クリスマス後片付け
15日	始業式、実力テスト
16日	防災訓練、職員会議
19日	高校推薦入試準備、高校推薦入試・内進生面接
22日	高校推薦入試合否判定会議
22日～26日	高校一般入試願書受付
24日	高校推薦入試合合格発表
24日～2月5日	高校推薦入試入学手続き
25日～26日	期末試験（3学年）

1月31日	職員会議
2月 1日	スキー教室（1学年）
2日	進路相談会（2学年）
5日	高校一般入試準備
6日	高校一般入試（生徒休業日）
7日	高校一般入試採点日（生徒休業日）
8日	入試会場復帰、高校入試原案作成会議、卒業認定会議
9日	高校一般入試合否判定会議
13日	福祉のお仕事魅力発見セミナー（2学年）
14日	高校一般入試合格発表
14日～3月15日	高校一般入試入学手続き
16日	総合探求発表会（2学年）、卒業追認・職員会議
21日	親子で考える進路講演会（1・2学年）
22日	総合探求発表会（1学年）
28日	卒業礼拝（3学年）
29日	高校卒業式総練習、生徒会記念品贈呈・各賞表彰
3月 1日	高校卒業式
4日	卒業式片付け
5日～8日	期末試験
11日	職員会議
13日	中学校卒業式
14日	成績会議
15日	終業式、退任式、大掃除、教室整備
16日	高校入学者説明会・内進学説明会
25日	追認・職員会議
27日	3/16分振替休日
29日	教員室移動

令和5年度 卒業者数

152名